

共同参画



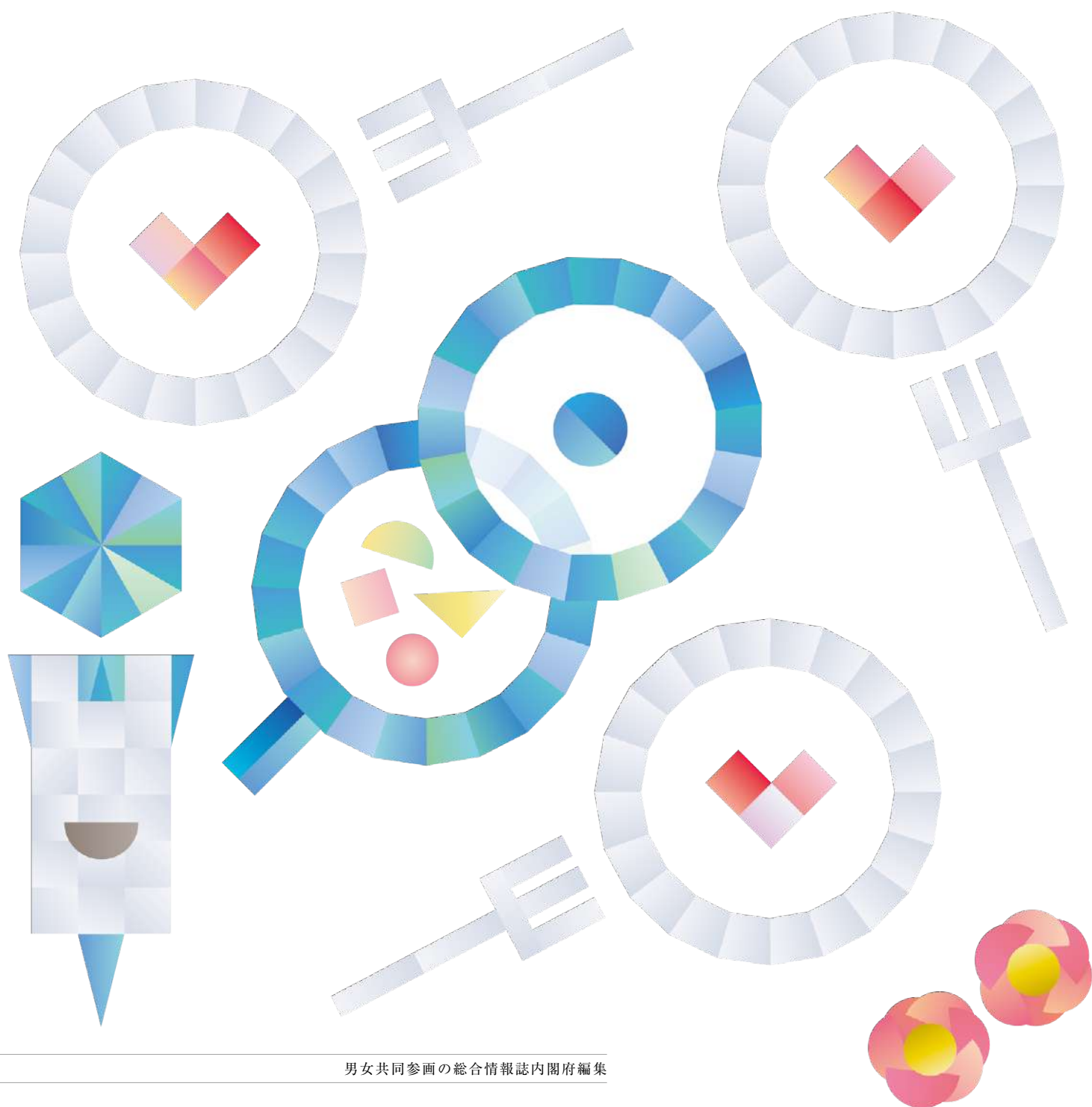
"Kyodo-Sankaku"
Number 116
October 2018
Japan Cabinet Office

10

内閣府

Special Feature

特集／「“おとう飯”始めよう」キャンペーン実施自治体からの
報告 vol.2



主な予定

Schedule

10月1日～31日	里親月間(里親を求める運動)
10月15日～21日	行政相談週間
10月17日、18日	「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」(東京都)
10月20日	「女性のための公務研究セミナー」(東京大学駒場キャンパス)
10月25日	「女性のための霞が関特別講演」(京都大学吉田キャンパス)
11月3日	来たれ、リーガル女子!～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう!～ (西南学院大学法科大学院(福岡県福岡市))
11月11日～24日	家族の週間
11月12日～25日	女性に対する暴力をなくす運動
11月18日	家族の日フォーラム(宮崎県宮崎市)
11月18日～19日	アジア太平洋交流事業シンポジウム(東京都)
11月27日	「女性のための霞が関特別講演」(上智大学四谷キャンパス)
11月29日	「女性のための霞が関特別講演」(早稲田大学戸山キャンパス)
12月1日	女性の活躍!長崎から、世界へ ～フィフティ・フィフティをめざして～ みんなが元気になる、街を 世界を 創る
12月1日	自分を受け入れ自分を認め一歩踏み出す-「キキ」の魅力と自己肯定感
12月9日	女性も男性も誰もが気軽に取り組める家事参画促進に関するシンポジウム 「おとう飯ネクストステージ☆男性料理教室が証明する料理とWLB(ワーク・ライフ・バランス)の相関性」(仮称)
平成31年1月31日	「女性のための公務研究セミナー」(京都大学百周年時計台記念館)
平成31年2月8日	「女性のための公務研究セミナー」(お茶の水女子大学)

巻頭言

共同参画に寄せて

Foreword

スリール株式会社
代表取締役
堀江 敦子



Horie Atsuko

男女共同参画会議重点方針専門調査会委員として、予算概算要求等の状況の調査検討などさせていただいております。

私は8年前より、大学生から子育て中の方に向けた、ライフキャリア教育を行っています。1万人以上の若者に会う中で、「女性の約50%が第一子出産後に離職する」という長年解決されない問題の背景には、仕事と子育ての知識や経験が無いことによる「ネガティブイメージ」や、性別役割分担などの固定観念が存在します。調査では、子どもを産む前の働く女性の92.7%が、「仕事と子育ての両立に不安を抱えている」と答えました*。離職してからの再就職支援だけではなく、辞める前からの対策をしない限り、この離職を解消することは困難です。この度2018年の重点項目では、「学校教育段階でのライフキャリア教育」が盛り込まれました。学校教育の中で固定観念を払拭し、長期的に働き続ける意識と方法を学ぶカリキュラムができることを期待しています。よりリアルな体験型のアクティブラーニングが意識を変える上では有効です。過去の教科書を変える・授業で教えるというのではなく、多様な生き方をしていく大人に出会ったり、自分で行動し将来について考えるという「多様な意見を知り、考えて行動する」自律を促す授業が増えていくことが、今後の日本の人材を強くしていく契機になると考えています。

*2017年両立不安白書

目次

Contents

特集

「“おとう飯”始めよう」キャンペーン 実施自治体からの報告 vol.2

Page 02

行政施策トピックス1

「夏のリコチャレ2018～理工系のお仕事を体感しよう!」を開催
～女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援～

Page 06

行政施策トピックス2

「自治会・町内会活動への女性参画推進に向けたワークショップ」
開催の報告について

Page 08

行政施策トピックス3

上場企業の女性役員登用促進について

Page 10

連載

その1 ジェンダー主流化の20年(6)～世界に広がるジェンダー予算～
大崎 麻子((特活)Gender Action Platform 理事、関西学院大学客員教授)

Page 11

取組事例ファイル(団体編)

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組
押味 至一(鹿島建設株式会社代表取締役社長)
島田 和幸(株式会社ファンケル代表取締役 社長執行役員CEO)
堀場 厚(株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO)
松本 洋介(株式会社LiB代表取締役)

Page 12

ニュース&インフォメーション

「男女共同参画推進フォーラム」実施報告 他

Page 14

男女共同参画センターだより

福島県男女共生センター(女と男の未来館)



「“おとう飯”始めよう」キャンペーン 実施自治体からの報告 Vol.2

内閣府男女共同参画局総務課

目指せ、カジダン（家事男子）！ （三重県桑名市）

おとう飯サポーターへの参加

桑名市では、働き方改革・女性活躍推進室を設置し、働き方改革をはじめ、女性の活躍を推進する取組を進めています。昨年8月には市長がおとう飯サポーターに参加し、市長自ら得意料理であるあさりの和風パスタを作り、その様子を内閣府のおとう飯キャンペーンのサイトや市のHP、Twitter、広報チラシ等、広く市民に紹介し、男性の家事・育児参画の促進を呼びかけました。



あさりの和風パスタと伊藤市長

簡単料理参画セミナー

今年の2月には、市長がおとう飯サポーターに参加したことをきっかけに、男性講座として「簡単料理参画セミナー」を実施しました。セミナーの講師には、(株)よしもとクリエイティブエージェンシーの松橋周太呂さんをお迎えし、時短レシピを参加者に教えながら作っていただきました。

セミナー参加者を募集すると、すぐに満員となりたくさんの方が参加されました。

当日のレシピは、トマトの赤い冷製パスタとみりんプリンで、料理が初めての方でも簡単に作れるようなレシピでした。参加者からは「とても簡単に作れたので家でも実践したい」、「簡単でおいしかったので子どもにも食べさせたい」という意見をたくさんいただきました。パスタのソースはトマト缶と白だしをミキサーにかけて作ったり、プリンは砂糖を使わずに作るプリンで、料理経験者の方もそのレシピに驚かされるとともにとても勉強になるものでした。



簡単料理参画セミナーの様子

おとう飯サポーター市内への周知

桑名市では、毎年2月に桑名市立中央図書館において「男女共同参画に関する啓発パネルの展示並びに男女共同参画に関する書籍の紹介」を実施しています。今年の2月は書籍の紹介として、パパ育児に関する書

籍を中心にPRし、市長がおとう飯サポーターに参加したことや男性の家事・育児参画を促進していることなどの情報を発信しました。



桑名市立中央図書館での展示の様子

今後の展開

平成29年8月に実施した「桑名市男女共同参画に関するアンケート調査」では、家事分担の現状について、女性が「ほぼ1人で担当している」「かなり担当している」と回答する割合が男性よりも高い結果となりました。さらに、1日の平均の家事時間についても、男性の「30分未満」という回答が最も多かったのに対して、女性は「5時間以上」という回答が最も多いという結果でした。

共働きの世帯が増えている今、料理だけでなく、すべての家事、育児に男性の参画が必要です。

市では「おとう飯始めようキャンペーン」をきっかけに、今後も男性の家事・育児参画を促進する事業を検討していきたいと考えています。

内閣府が昨年6月からスタートさせた、子育て世代の男性の家事・育児の中で、料理への参画促進を目的とした「“おとう飯”始めよう」キャンペーンの取組について、ご賛同いただいている各自治体の取組を一部ご紹介します。

なお、平成30年9月末現在、23人のおとう飯サポーターに御参加いただいています。

千葉県初の「おとう飯サポーター」誕生!! (千葉県大網白里市)

◇おとう飯サポーターへの参加

大網白里市では、「男女がともに認め合い、支え合い、個性と能力を発揮できる社会の実現」を基本理念に、男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進しています。

平成29年度からは、市民協働団体とともに啓発イベント等を開催するなど、男女共同のさらなる活性化に向けた活動を行っていますが、同時期に開催した市民アンケートでは、女性の大半が男性に対し「料理、洗濯など家事全般を手伝ってほしい」と思っているのに対し、実際に男性が行っている家事は、ごみ捨てや掃除などの限られた分野にしかおおよばず、なかでも、「料理をつくる」と答えた男性はほとんどいないということがわかりました。

このような中、「男女共同参画を進めていこう!」との想いから、自身も子育て経験がある市長自らが先頭に立ち、平成29年9月に千葉県初の「おとう飯サポーター」に名乗りを上げました。



「火なし寿司」を作りました

◇市長とイクメンパパの料理教室を開催

おとう飯サポーターとしての第一歩は、小学校就学前の子を持つ市職員を対象とした“市長とイクメンパパの料理教室”でした。市長自らが参加を呼びかけたところ、該当者の9割にのぼる職員に参加してもらうことができました。当日は、「おとう飯の心得」を実践してもらうため、昼休みの1時間で調理から試食、片づけまでのすべてをこなす「火を使わずにつくるお寿司(火なし寿司)」に挑戦しました。

参加者の中には、ほとんど調理経験がなく、食材を切ることに苦戦している人もいましたが、一方で、華やかな包丁さばきを披露し、皆から「おー!すごーい!」との歓声を受ける場面も見られ、和気あいあいと作ることができました。

料理への挑戦はハードルが高いように思えますが、やってみると意外に面白く、簡単にできるということが伝わったのではないかと思います。

参加者からも「簡単にできて美味しかった」や「家でも作ってみたい」などの感想が聞かれました。



イクメンパパさん、真剣に調理中です

◇次代を担う若い世代へ男女共同参画に関するメッセージを発信

男性の家事・育児への参加は、パパになる前から行っていく必要があることから、市では、次代を担う若い世代に対し、男女共同参画に関するメッセージを発信する取組を行っています。

市内の図書室では、「男女共同参画の視点で読める絵本の特集コーナー」を設け、絵本を通し、子どものうちから男女共同参画に対する考え方が身近なものになるよう啓発を行っています。

また、市内にある県立大網高校へ市の職員が出向き、男女共同参画に関するメッセージを発信しています。高校生にとっては、馴染みのないテーマですが、生徒たちは、熱心に耳を傾けてくれています。



絵本を通して男女共同参画を啓発

このように、一つ一つは、小さな取組みですが、市内のイクメンパパが家事や育児等に少しでも参加し、家族みんなの笑顔が増えるよう、今後もさまざまな取組を進めていきたいと考えています。

「“おとう飯”始めよう」キャンペーン実施自治体からの報告 Vol.2

男の料理教室（新潟県十日町市）

十日町市では、「一人ひとりが自分らしく生きる元気なまちづくり」を目標とする十日町市男女共同参画基本計画を策定し、「男女平等を推進する社会づくり」「女性が活躍できる社会づくり」「多様な生き方が選択できる社会づくり」のための施策を展開しています。

おとう飯キャンペーンについては、男性の家事・育児等への参画の促進に繋がるものとして平成29年度に賛同し、おとう飯サポーターとして、地元の銘柄豚である妻有ポークと十日町産の茄子を使ったみそ炒めを作りました。



関口芳史 十日町市長

また、おとう飯キャンペーンに関連する取り組みとして、十日町市では成人男性を対象とした「男の料理教室」という講座を行っています。

これは、性別による固定的役割分担や社会的慣習の見直しのため、男性が調理や栄養の基礎を学び、家庭でも料理をする機会を得られるようになることを目的とした講座です。

包丁の研ぎ方、野菜の切り方などの料理の基礎からはじめ、夏を乗り切るためのバランス献立や、旬の魚を使ったレシピなど、気軽に作れる料理を学ぶことができます。

約半年の期間に全11回実施され、料理経験の全くない男性であっても、講師に指導してもらいながら、家庭でも作れるような料理を完成させていきます。

はじめのうちは包丁の扱いにも苦労していた参加者が、回を重ねるにつれて上達していき、簡単な料理であれば手際よく作れるようになっていきます。

参加者が教室に参加する動機としては、「料理男子に憧れて」「自分でも料理を作れるようになりたい」「家族に喜んでもらいたい」といったものから、「普段から料理はするが、レパートリーを増やしたい」といったものまで様々で、みんなでわいわい料理する楽しさから、多くの方がリピーターとなる大人気の講座です。



男の料理教室チラシ（H30年度版）

平成29年度に作った料理としては、

和風チンジャオロース、こんにゃく炒り煮、レンジ蒸し茄子のお浸し、ラタトゥイユサラダ、きのこの焼きナムル、すくい豆腐のえのきあん、鯖の豆板醤炒め、鰯香味焼き、野菜カレーなどなど・・・。

名前だけ見ると難しそうな料理でも、作ってみると意外と簡単で、参加者の皆さんも喜んでいました。



真剣に料理するお父さんたち

習った料理を家に帰って家族に披露し、褒めてもらえることもあれば、まだまだだと辛口な評価を受けることもあるようです。

がんばれ、お父さん！

また、教室外においても、参加者の1人が講師となって手打ちそば教室を開催したり、各自で得意料理を持ち寄っての納涼会・忘年会を開催したり、地域住民が集まる公民館まつりで「ざる蒸しパン」を販売（あっという間に完売）したりするなど、「男の料理」は地域に広まってきています。

十日町市では、誰もが得意なこと・やりたいことを通じて自分らしく生きられるよう、今後も取り組みを進めてまいります。

作ってみよう！おとう飯^{はん}inとよたを実施しました！（愛知県豊田市）

1. さんかくフェスタ

豊田市では、毎年6月の男女共同参画週間にあわせ、男女共同参画センター登録団体によるブース出展やステージ発表などを行い、楽しみながら男女共同参画について学べる啓発イベント「さんかくフェスタ」を開催しています。

今年度の計画にあたり、親しみやすく、楽しんでもらいながら男女共同参画について啓発できる方法はないか？と考える中で「おとう飯^{はん}始めようキャンペーン」をやってみようか、という意見が職員から出たことをきっかけに、メインステージでの料理&トークショーと、男性向け料理講座の2本立てでイベントを行うこととしました。

2. 地元農家とコラボした地産地食のおとう飯^{はん}

豊田市というと車のイメージが強いかもしれませんが、実は農業が盛んな都市でもあります。せっかくなら地産地食で！ということで、豊田市周辺の若手農家集団「夢農人とよた」の皆さんにメニュー考案、地産地食の食材提供とステージ出演を依頼しました。

メニューを考案してくれたのは、市内にあるレストラン「ころも農園」の二宮マネージャー、ステージには、自身も「お父さん」であるきくらげ農

家の築山さんが出演してくださることになりました。

3. 笑いに包まれた料理&トークショー

「さんかくフェスタ」当日、ステージでは、よしもと芸人イシバシハザマをゲストに迎え、おとう飯^{はん}大使の石橋さんと相方のハザマさん、太田市長、夢農人とよたの築山さんによる料理実演が繰り広げられました。メニューは、「きくらげたっぷり中華飯」をメインに、お肉を油で揚げると手間を省いた「油淋鶏」ならぬ「焼淋鶏」、ビニール袋に入れてたたくだけ！「きゅうりとツナの和え物」で、豊田市産の食材をふんだんに使った3品です。

石橋さん主導で、包丁切りのアドバイスも交えながら、市長の見事な包丁さばきで料理は進行。市長のボケにツッコミを入れるなど軽妙な掛け合いに観客からも笑いが起こりました。ホットプレートがなかなか熱くならないというトラブルが発生しましたが、「そのうち焼けるので細かいことは気にしないで大丈夫！」と、石橋さんの臨機応変な対応もあり、見事3品が完成しました。



料理&トークショーの様子

4. 和やかな雰囲気料理教室

一方、センター内の調理実習室では、男性向け料理講座を開催。センター登録団体である「おやじの食卓」の皆さんのサポートを得て、約10名の男性が参加し、ステージのメニューと同じ3品を調理しました。参加者は料理初心者が多く、同時に3品を調理するというハードルの高い状況の中で、講師の奮闘もあり、無事に完成させることができました。

参加者の方からは「料理は経験がなかったが、やってみると楽しかった」という声がありました。また、2名の方が「おやじの食卓」に入会することとなり、男性ネットワークが広がるきっかけにもなりました。



おとう飯^{はん}（はん）メニュー

今回の「さんかくフェスタ」を契機に、太田市長は内閣府のおとう飯^{はん}サポーターに就任。豊田市では、今後も男性の家事育児参加を様々な形で応援していきます。



エプロン姿の太田市長



「夏のリコチャレ2018～理工系のお仕事を体感しよう!」を開催 ～女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援～

内閣府男女共同参画局推進課

内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会（以下：経団連）は共催で、2018年7月より夏休み期間を利用して、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援するため、「夏のリコチャレ2018～理工系のお仕事を体感しよう!～」を開催しました。これは、経団連加盟企業や大学等による主に女子中高生等を対象とした理工系の職場見学、仕事体験、施設見学など多彩なイベントの情報を内閣府「理工チャレンジ（リコチャレ）」サイトを活用し、積極的に社会へ発信する取組です。

今年は123団体が参加しました。企業や学術団体等のイベントや、大学の実験教室、先輩学生との交流会等165のイベントが全国で開催され、イベントには約24,000名の女子中高生、大学生、保護者等が参加しました。

1. 実施の背景

本格的な人口減少社会を迎える中、理工系分野における女性の活躍は、世界最先端の科学技術立国を目指す我が国が、持続的な成長を確保し、さらに、多様性によるイノベーションの創出によって社会の様々な問題解決を図る上で、極めて重要です。しかしながら、我が国における女性研究者の割合は15.7%と、諸外国に比べて低い水準に留まっています。また、大学学部生における女性比率も、理学系で27.8%、工学系で15.0%と大きな偏りが見られます。これに対し、「幼少期に科学に触れる機会」が、その後の理科への得意意識や学習意欲獲得に繋がっている可能性があるほか、具体的な職業イメージなど進学の前にある進路について、幅広く情報提供を行うこと等が理工系への進路選択の支援において有効と考えられます。内閣府では、理工系の職業や面白さに触れられる機会を提供することにより、

理工系進路選択や理工系職業に対する理解を促進し興味を喚起することで、次代を担う理工系女性人材の育成を目指しています。

2. 開催実績

■主なイベント内容

<企業>

- ・職場見学、現場見学、工場見学
- ・職業体験、ワークショップ、実験
- ・先輩女性社員との交流 等

<大学>

- ・実験教室
- ・サマースクール、サイエンスキャンプ
- ・シンポジウム、セミナー 等

<学術団体、その他>

- ・実験教室、体験学習
- ・サマースクール
- ・シンポジウム 等



リコチャレ鉄道技術教室
(小田急電鉄)



リケジョの先輩が語る不動産ビジネス (ヒューリック)

＜イベント実施団体数＞

企 業	58
大 学	40
学術団体等	7
そ の 他	18

■イベント数

合計：123団体、165イベント

今年度は、地方公共団体が中心となって地元の企業や大学等を集めてイベントを開催したり、業界団体が中心となって加盟企業が一堂に会したシンポジウムを開催するなど、これまで単独では取組を実施していない企業等も巻き込む形で、理工系女性人材の育成の裾野を広げる取組もみられました。

内閣府では、地域女性活躍推進交付金によりこうした取組を行う自治体の取組を支援しています。

3. 参加者の声

「『理系』といってもとても広くて、沢山

の製品や仕事があることがわかり、世界が広がった。」

「実際にものをつくる現場を見ることができ、将来つきたい職業を考える非常に有意義な一日だった。」

「建築に興味を持った。これから自分で建築について調べてみようと思った。」

「理系にはたくさんの進路があって、たくさんの職業があると分かりました。恐れずに自分の『好き』に従っていこうと思います。」

「電車を走らせるために、色々な仕事に関わっていることがわかりました。」

「理科も数学も苦手だけど、理系の進路に進めるか先輩に実際に聞いてよかった。ステキな仕事に出会ったので将来の夢の一つにしたい。」



日本信号でものづくりを体験しよう！（日本信号）



リケ女部！～航空会社の仕事のウラガワ（北九州市）



水の不思議体験、ドボクの魅力を学ぼう しずみいランドへGO！（三井住友建設）



わたしの住むまちをデザインする仕事（日刊建設通信新聞社）



「自治会・町内会活動への女性参画推進に向けたワークショップ」開催の報告について

内閣府男女共同参画局総務課

地域での様々な活動を担う自治会・町内会等において男女共同参画を推進することは、我が国における男女共同参画社会の実現及び地域社会を持続可能なものとするために、非常に大切なことだと考えられます。

政府は、平成29年時点で5.4%にとどまっている自治会長に占める女性の割合を、平成32年までに10%とすることを目標として、地域活動における男女共同参画を推進することとしています。（平成27年12月閣議決定「第4次男女共同参画基本計画」）

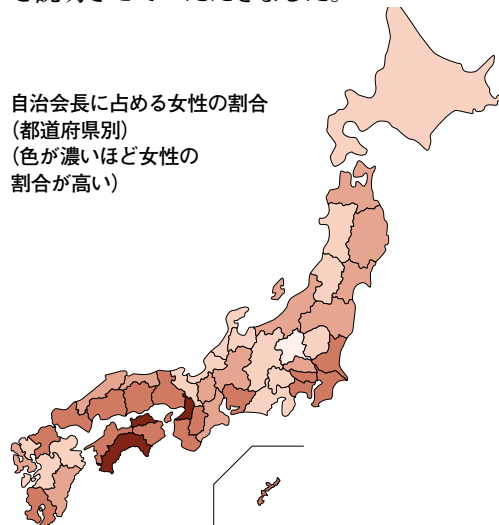
これらを踏まえた施策の一環として、内閣府男女共同参画局では、平成30年2月に「自治会・町内会活動への女性参画推進に向けたワークショップ」を兵庫県宝塚市、広島県廿日市市、宮城県仙台市の3箇所で開催いたしました。

各ワークショップでは、開催市及び近隣の市町村から、男女を問わず自治会長など自治会活動の中核を担っている方や、市役所など行政関係部局職員の方等にご参加いただき、以下のようなプログラムが行われました。

- ・内閣府による現況の説明
- ・有識者による講演
- ・女性自治会長による取組事例紹介
- ・グループワーク

内閣府からは、自治会長に占める女性の割合が、全国平均では5.4%だが、都道府県別にみると15%を超えるところ（大阪府）から1%未満（群馬県）まで差があるこ

と、全国的に自治会では役員・運営の担い手不足、役員の高齢化、近所付き合いの希薄化などが課題となっていること等を説明させていただきました。



次に、有識者による講演として、宝塚市では萩原なつ子氏（立教大学社会学部教授）に、廿日市市及び仙台市では河合克義氏（明治学院大学社会学部教授）に、なぜ地域活動への女性の参画が必要なのか、それぞれの見識を盛り込んでお話をさせていただきました。



河合教授による講演（廿日市市）

開催地	日 時	会 場	参加人数
宝 塚 市	2月1日（木） 13：30～16：00	宝塚市立男女共同参画センター・エル	21人（うち女性12人）
廿日市市	2月19日（月） 13：30～16：00	廿日市市役所	53人（うち女性27人）
仙 台 市	2月26日（月） 13：30～16：00	仙台市青葉区役所	42人（うち女性21人）

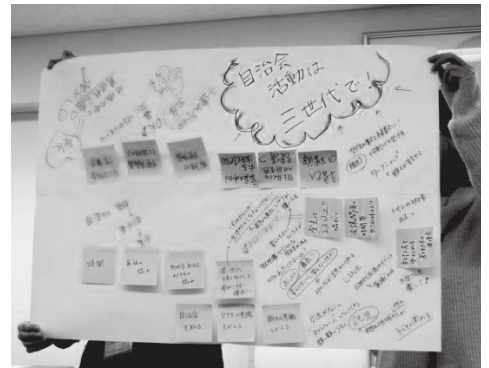
また、自治会長としてご活躍されている女性から、ご自身の取組について発表していただきました。新興住宅街、地域で維持していかなければならない文化財が残る伝統的街区、高齢化が顕著な地区など、自治会のある環境はみな異なりますが、それぞれ苦勞しているところ、普段の活動で心がけていること、ご自分が会長になって新たに始めた取組など、貴重なお話を伺うことができました。



グループワークの様子(仙台市)



女性自治会長による取組事例発表(廿日市市)



グループごとの発表①(宝塚市)

そしてプログラム最後のグループワークでは、参加者全員が4～5人ずつのグループに分かれ、「自治会・町内会で女性がもっと活躍できるようにするには、どうしたらよいか」をテーマに、意見を出し合いました。お茶やお菓子がテーブルの上に置かれた和やかな雰囲気の中、途中でテーブルとメンバーをシャッフルしながら、一人一人が自分の考えを話すことで、相互理解を深めたり、新たな気づきを得る機会としていただきました。最後は、話し合いの結果を共有するために、グループごとにまとめた内容を発表していただきました。



グループごとの発表②(仙台市)

最後に誌面をお借りして、ワークショップの開催のために多大なご尽力をいただいた宝塚市、廿日市市、仙台市の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



上場企業の女性役員登用促進について

内閣府男女共同参画局推進課

1. 女性役員登用の必要性

女性が企業の意思決定に関わることで、多様な価値観が企業の経営に反映されるとともに、多様な価値観を受容する組織ではイノベーションが促進され、企業競争力や社会的評価が向上し、企業価値の向上にもつながります。

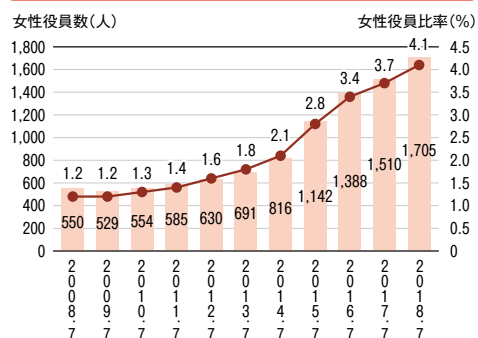
このように、女性の活躍推進は我が国の持続的成長のために不可欠であるとの考えの下に、安倍内閣の最重要課題の一つとして、政府は女性役員登用を促進するための取組を実施しています。

2. 女性役員登用の現状

第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）では、上場企業役員に占める女性の割合の目標値を「早期に5%、2020年までに10%を目指す」と定めています。同目標の現状値は平成30年9月公表の「役員四季報2019」では4.1%（平成30年7月末時点）となっています。女性役員数で見ると、第2次安倍内閣発足以降、この6年間で1,700人を超え、約2.7倍に増えています。

上場企業の女性役員数の推移

第4次男女共同参画基本計画における成果目標 10%(2020年)



出典：東洋経済新報社「役員四季報」

(注)：調査時点は原則として各年7月31日現在。

調査対象は、全上場企業。ジャスダック上場会社を含む。

「役員」は、取締役、監査役、指名委員会等設置会社の代表執行役及び執行役。

3. 女性役員登用促進のための取組

平成25年4月、安倍総理から経済界に対し、「全上場企業において積極的に役員・管理職に女性を登用していただきたい。まずは、役員に一人は女性を登用していただきたい。」との要請を行いました。

この要請を皮切りに、政府は、有価証券報告書への「役員の男女別人数」及び「女性比率」の記載の義務付けや、女性も含めた「取締役の多様性の確保」を重要な要素の一つとしたコーポレートガバナンス改革を実施しています。また、女性役員の登用状況や必要性をより多くの方に知ってもらうため、全上場企業あてにポスターやリーフレットを配布しています。

一方、企業の皆様からは、女性役員を登用したくても、人材がないという話もお聞きます。そこで、企業における役員選定に当たり、女性登用の参考となる情報を提供するため、国の審議会等の委員等の経験者の女性についてデータベース化し、公開しています。

さらに、役員候補者を増やすため、執行を担う内部登用による役員候補、及び、監督を行う社外取締役候補となる女性人材を対象に「女性役員育成研修」を実施しており、平成30年度は、神奈川、愛知、関西の3地域と大学1校で実施します。

こうした取組を実施しているものの、政府目標の達成には道半ばであり、取組の加速が必要な状況です。政府としては、引き続き、目標達成に向けた取組を進めてまいります。

○人材情報はHPで公開しています！

はばたく女性人材バンク

検索



ジェンダー主流化の20年(6)～世界に広がるジェンダー予算

(特活) Gender Action Platform 理事 大崎 麻子



「ミレニアム開発目標達成のための戦略：ジェンダーの視点を取り入れたマクロ経済と予算のあり方」シンポジウムの様子1 (2006年7月)

<http://www.undp.or.jp/undpandjapan/widfund/symposium.shtml>



同シンポジウムの様子2 (2006年7月)

<http://www.undp.or.jp/undpandjapan/widfund/symposium.shtml>

1990年代後半から、開発におけるジェンダー主流化を進めるためのイニシアティブとして、「ジェンダー予算」が世界各地に広がりました。UNDPにも、途上国の政府やNGOから「ジェンダー予算」への支援要請が数多く寄せられるようになりました。その背景には、1990年にUNDPが「人間開発」という概念を打ち出し、開発のパラダイムが「経済中心」から「人間中心」に移行したこと、その流れで、民主的ガバナンスが重視され、「予算編成」プロセスの透明化と市民の参画を推進する動きが加速したこと、さらに、グローバル化が「政府の介入を最小限に抑え、自由競争を推進することで、市場が富を生み出し、トリクルダウン効果（おこぼれ効果）によって、全ての人が恩恵を受けることができる」というかけ声のもとに急速に進展しながら、実際には、国と国の間のみならず、国内でも少数の勝者と多数の敗者を生み出し、格差を広げることになったことがあります。削減された社会保障や公共サービスを無償労働で肩代わりするなど、女性への影響は深刻でした。グローバル化が及ぼす「負の影響」を最小限に抑え、それが生み出しうる「新たな機会」をいかに活用するか、マクロ経済政策や公共预算にどのようにジェンダー平等の視点を主流化していくかが重要な開発課題となり、「ジェンダー予算」の政策手段としての可能性が注目されるようになったのです。

「ジェンダー予算」は、「女性のための予算」ではなく、国の総予算や省庁の予算、自治体の予算など、公的財源から成る予算を、ジェンダー平等の観点から分析する手法を指します。日本でのジェンダー予算研究の第一人者、故村松安子東京女子

大学名誉教授は、次のように定義づけていました。「(ジェンダー予算とは) 現実の予算が果たしてジェンダー平等政策を推進するように配分されているか、あるいは、配分が既存の男女間の不平等を縮小する効果を持つのか逆に拡大する効果を持つのか、さらに、ジェンダー平等社会形成への社会（特に女性が不利な状況に置かれているとすれば）の必要を満たす予算配分となっているかなどを査定・評価する手法である¹」。

「予算」や「マクロ経済政策」は、ジェンダーに中立的であると考えられていましたが、男女に異なる影響を及ぼします。立案・策定過程に関わっているのは主に男性であること、性別役割分業が家庭・地域・社会全体に深く根ざしているところでは、あらゆる生産資源や経済的な利益が男女間で不平等に分配される構造になっていること、さらに、多くの場合、女性が担っているケア労働は無報酬であるがゆえに、国の経済計算やGDPに換算されず、その価値や貢献が経済政策の策定や分析で考慮されないことなどを鑑みると、実はジェンダー・バイアスに満ちていることがわかります。「予算」、つまり、国や自治体の一会計年度の収入と支出の計画についても、何に優先的に予算を配分するか、予算をどのような事業に充てるかは、男性の視点に立って決められていることが多いのです。「国や組織のトップの『ジェンダー平等は大事』という発言が単なるリップサービスかどうかは、予算を見ればわかる」とよく言われたものです。今回は、ジェンダー予算の具体的な取り組み事例を紹介します。



おおさき・あさこ／(特活) Gender Action Platform 理事、関西学院大学客員教授
コロンビア大学国際公共大学院で国際関係修士号を取得後、UNDP (国連開発計画) 開発政策局に入局。UNDPの活動領域である貧困削減、民主的ガバナンス、紛争・災害復興等におけるジェンダー主流化政策の立案、制度及び能力構築に従事した。現在は、フリーの国際協力・ジェンダー専門家として、国内外で幅広く活動中。『エンパワーメント 働くミレニアル女子が身につけたい力』(経済界)。

1 村松安子『「ジェンダーと開発」論の形成と展開－経済学のジェンダー化への試み』未来社、2005年、p133

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言賛同者の取組

一昨年「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が公表され、現在180名を越える男性リーダーが本宣言に賛同しています。今月は4名の賛同者の取組を紹介します。

多様な働き方を認め、活力ある企業グループとなることを目指す

鹿島建設は、女性が働きやすい職場環境は誰にとっても働きやすい環境だと考えており、若年層の入職を促進する観点からも、現場における職場環境の一層の改善を目指しています。2015年4月より、当社の女性技術者と協力会社の女性技能者を中心とした「鹿島たんぽぽ活動」に取組み、積極的な職場改善提案の好事例(女性専用の休憩所やトイレ、パウダールームの設置等)を全社展開しています。

当社は、女性総合職の採用拡大、職域拡大、管理職登用等、早くから女性の活躍推進に取組むと共に、育児・介護休業制度の充実に取組んできました。今年度は、4月に本社ビル近郊に事業所内共同保育所を開設し、今年度中に在宅勤務制度、退職者復帰制度等を導入することを目指しています。また、イクメンサポーター企

業として男性社員の育児参加を推進するために、従来より実施している「出産前後の女性総合職向け研修」を開催するに当たり、上司と配偶者にオブザーバー参加してもらうことを検討中です。

また、女性活躍推進を目的とした各種研修を継続実施しており、今年度の土木系女性技術者研修は、グループ会社にも範囲を拡大し100人規模で開催しました。

その他にも、次世代育成を目的とした取組として、内閣府男女共同参画局の「リコチャレ」に参加し、未来の理工系女子である女子中高生向けの現場見学会を開催しました。

今後も、多様な働き方を認め、社員それぞれが自分の能力を発揮し、一人ひとりが鹿島グループの社員であることを誇りにできる活力ある企業グループとなることを目指していきます。



押味 至一
鹿島建設株式会社
代表取締役社長



土木系女性技術者研修の様子



リコチャレ・現場見学会の様子

働きやすい職場づくりを目指して

長く安心して活躍できる環境を整えると共に、採用競争力強化のため、2018年4月より全国の直営店舗で働く契約社員全員を「地域限定正社員」に転換し、雇用期間の無期化及び、賞与支給額を平均1.9ヵ月から2.7ヵ月へ増額、また休日日数も113日から120日へ増やすなど、処遇の改善を行いました。

併せて、本社部門および工場部門で働く契約社員とパート社員、直営店舗で働くパート社員全員を「無期労働契約」に切り替えました。

「リフレッシュ休暇」「ライフイベント有給休暇」を導入し、計画的に年次有給休暇を利用して「連続休暇」の取得を促したり、本人及び親族・パートナーの誕生日や、子供の行事等のライフイベント時に積極的に年次有給休暇を取得することを推奨しています。特に男性従業員に対し、こ

うしたライフイベントへの意識づけを行うことで、ワークライフバランスの向上を目指しています。

その他、従業員を支える家族を会社に招待し、職場見学や自社商品が体験できる「ファミリーデー」を実施しました。今年は31家族(うち子供42名)が参加をしました。家族には職場・仕事への理解を深めてもらい、周囲の従業員には同僚の家族との交流から、相互に深く理解し合うことができ、働きやすい職場の雰囲気作りができました。仕事に対する家族の理解を得ることは、従業員のモチベーションアップにもつながっています。



島田 和幸
株式会社ファンケル
代表取締役 社長執行役員CEO



創業者でもある会長の池森より「地域限定正社員」辞令交付式



社長を囲んで、子供たちとの記念写真



堀場 厚
株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼グループCEO



管理職対象ダイバーシティ研修の様子



管理職女性がキャリアを語るワークショップ

ステンドグラスのように多様に輝く

HORIBAグループは、教会のステンドグラスの絵のように、社員一人ひとりが多様な色合いや形、場所でそれぞれに輝くことで美しい絵を描きスーパードリームチームになることを理想としています。

社は「おもしろおかしく」を掲げる当社では、性別やライフイベントの有無にかかわらず、個人の潜在能力が十分に発揮できるよう、2000年代より在宅勤務や短時間勤務など両立支援制度を拡充してきました。2010年以降は、女性の継続就業を支援するステージから、経営戦略としての女性活躍のステージに移行し、2014年にダイバーシティ推進プロジェクトを発足させ全社への意識と行動の改革を促進しています。

目標は平成33年までに意思決定プロセスにおける女性参画の割合を20%とし、すでにグローバル戦略会議や予算会議な

ど主要会議での女性参加者・発表者比率の向上が見られ、また女性管理職も2013年6%から2018年12%と倍増しました。

若手・次世代リーダー層へのキャリア教育をはじめ、育児・介護・働き方など様々なテーマで課題解決のための社内外でのコミュニケーションの機会を設け、女性自身がキャリアやマネジメントを考える機会を提供すると同時に育成を担う管理職をターゲットにしたダイバーシティ教育や働き方改革を継続して実施しています。

ネットワーキングでは、社内や国内のネットワーク作りに留まらず、海外グループメンバーや京都府内企業の異業種との情報交換および勉強会を積極的に実施し、他流試合の中での気づきの機会を創出しています。ダイバーシティを経営戦略の重要な柱の一つとしている当社では今後とも女性の活躍をさらに加速していきます。



松本 洋介
株式会社LiB
代表取締役



子供と一緒に出勤して働く社員



働く女性の支援を行うキャリアアドバイザーの相談風景

女性の働きたい気持ちを応援できる社会の実現を目指して

株式会社LiBでは「生きるをもっとポジティブに」というスローガンを掲げ、女性のライフ&キャリア支援を事業内容としています。

女性が生き活きと働くことが当たり前の時代になりましたが、女性の場合、結婚・出産・子育てなどのライフイベントにどう対応するか決まった正解はなく、みんな自分のキャリアを模索し悩みを抱えています。

私たちは、日本の働きたい女性の働く場所を開拓し、応援する為、女性と仕事、そして生活をつなぐサービスを通じて働く女性を応援しています。

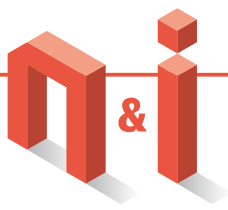
弊社では、社員もロールモデルとなるべく、「短時間勤務」「フレックス」「正社員登用」「375制度」等の制度を推奨し、女性のワーク・ライフ・バランスを支援しています。

特に「375制度」は37.5度の熱が出て保

育園に預けられなくなったときにリモート勤務にすぐに変更ができる制度です。37.5度の熱では子供も元気な事が多く、「子供も元気で親も元気だけど保育園には預けられない」という時に活用されています。

また、「キッズルーム」を設置し、保育園に預けられない時や小学校の夏休み期間などに子供と一緒に出勤し、仕事ができる環境を提供しています。

このような取組は、子供を持つ多くの社員が活用し、セルフマネジメントの中で、生産性の向上を意識して取組んでいます。また、これから結婚や出産を控えている社員からも「安心して長く働ける」という声が多く、今後も事業面と社内制度の両面から、働く女性の活躍を応援する取組に全力を尽くしたいと考えております。



[News & Information]

1 News 国立女性教育会館 (NWECC)

「男女共同参画推進フォーラム」実施報告

8月30日(木)～9月1日(土)に「つなぐ、あらたな明日へ～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～」をテーマに「男女共同参画推進フォーラム」を開催しました。期間中は、民間団体、大学などを中心に男女共同参画、女性リーダー育成、DV被害者支援、若者の社会的課題等71件のワークショップやパネル展示など、多彩なプログラムが施設いっばいに展開されて、全国からのべ2,000人を超える参加者が実践につながる情報収集とネットワーク形成を行いました。

このほか、特別講演では、国谷裕子氏が「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」をテーマに、男女や世代間の意識改革の必要性や国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)について私たち全員が取り組んでいく課題であると講演しました。シンポジウムでは「新しい暮らしのカたち～働き方×幸福度～」と題し、Iターン、Uターン、パラレルキャリアなどのキーワードを取り上げ、男女共同参画の視点から新しい暮らしへのヒントを探りました。映画上映では、NWECCに寄贈されたベアテ・シロタ・ゴードン氏の資料や写真、本などの展示企画も会場内で行いました。また、3日間を締めくくるプログラムとして行った多世代ワールドカフェでは、若者が直面する社会問題について発信、世代を超えてどのように協働していけるのか、多世代で討議しました。

2 News 国立女性教育会館 (NWECC)

「女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～」実施



8月9日(木)～11日(土)に「女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い～(夏学)」を開催しました。

今年で14回目を数える夏学はNWECCの「夏の風物詩」。全国から96名の女子中高生が集まり、3日間の合宿研修に臨みました。理系分野で活躍する女性の講演、各学会や企業等による実験・実習やポスター展示などで構成される夏学ですが、最大の目標は、理系に関心を寄せる女子中高生たちが具体的な将来イメージを持てるようになること。スタッフとして関わる様々な理系分野の研究者・技術者、大学・大学院に通う女子学生たちに、質問・相談できる場面がたくさん設けられています。キャリアプランを立てるワークにも挑戦。最終日のポスター発表会では、各自が思い描く進路をいきいきと語り合いました。

女子中高生たちからは「夢が現実的になって、諦めないと考えたこと、少し道が見えてきたことが大きな収穫だった」「いろんな考えを聞けて視野が広がった感じがした。すごく楽しくて充実した3日間でした」等の感想が寄せられました。

3 Info 人事院

「女性のための公務研究セミナー」・「女性のための霞が関特別講演」開催



国家公務員の仕事ってどんな感じ?女性でも活躍できる?

そんな貴方に、霞が関で活躍中の女性行政官が、国家公務員の仕事の魅力をお伝えします。

【女性のための霞が関特別講演】

我が国の重要な政策課題について、様々な経験を踏まえて女性ならではの視点から分かりやすく講演します。あわせて女性の立場から仕事のやりがいや家庭との両立についてもお話しします。

●京都大学 吉田キャンパス

開催日時:平成30年10月25日(木)13:30～

講演省庁:厚生労働省・環境省

●上智大学 四谷キャンパス

開催日時:平成30年11月27日(火)17:00～

講演省庁:特許庁・国土交通省

●早稲田大学 戸山キャンパス

開催日時:平成30年11月29日(木)／12月7日(金)

両日とも、17:00～

講演省庁:文部科学省・会計検査院／外務省・法務省

※詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.jinji.go.jp/saiyo/event/josei/joseitokubetu.htm>

【女性のための公務研究セミナー】

個別ブースで各府省の業務概要、仕事の魅力・やりがい、ワークライフバランスなど、様々な情報を発信します。

●東京地区

①開催日時:平成30年10月20日(土)10:00～17:30

会場:東京大学 駒場キャンパス

②開催日時:平成31年2月8日(金)時間未定

会場:お茶の水女子大学

●近畿地区

開催日時:平成31年1月31日(木)時間未定

会場:京都大学 百周年時計台記念館

※詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.jinji.go.jp/saiyo/event/josei/josei.htm>

◎どちらのイベントも予約は不要、服装も自由です。男性も

含めどなたでもご参加いただけます。開催大学の学生以外の方も奮ってご参加ください。(なお、採用選考活動の一環として行われるものではありません。)



[News & Information]

4 Info

内閣府

「政治分野における男女共同参画」ページを開設



本年5月に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されたことを受け、内閣府男女共同参画局ホームページに「政治分野における男女共同参画」に関する情報をまとめたページを開設しました。

- ・法律の概要
- ・地方公共団体における女性議員の割合等(都道府県・市区町村ごと)
- ・内閣府男女共同参画局の取組
- ・諸外国における状況

などを掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/index.html>



5 Info

内閣府

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業の開催

内閣府男女共同参画局では、男女共同参画推進連携会議、同会議構成団体等とともに、男女共同参画に関する理解を深めるために、全国各地でシンポジウム等を開催しています。本年度は7団体とシンポジウムを実施する予定ですので、ぜひ奮って御参加ください。(参加費は無料)

< 11月開催予定のセミナーの御紹介 >

○来たれ、リーガル女子! ~女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう! ~ (日本弁護士連合会等との共催)

刑事、民事、国際関連等、多岐にわたる女性法律家の仕事内容や魅力を紹介し、女子中高生が進路選択の一つとして法律家を検討するに当たり、理解を深めます。

日時: 11月3日(土・祝) 13:00~17:00

場所: 西南学院大学法科大学院(福岡県福岡市)

基調講演及びパネルディスカッション中継先
鹿児島大学、琉球大学

内容: 基調講演「弁護士になって良かった!」(原田直子氏 2016年度福岡県弁護士会会長)、パネルディスカッション「女性法律家のさまざまな働き方(仮)」(弁護士、裁判官、検察官等)、中高生向けグループセッション、保護者・教員向け説明会

定員: 西南学院大学120名

鹿児島大学30名、琉球大学36名

< 12月開催予定のセミナーの御紹介 >

○女性の活躍! 長崎から、世界へ ~フィフティ・フィフティをめざして~みんなが元気になる、街を 世界を 創る (特定非営利活動法人日本BPW連合会等との共催)

長崎県が抱える課題と強みを重点的に取り上げながら、地方においても2030年までに男女の完全な平等「203050」を実現するため、どのように取り組んでいくべきかを考えます。

日時: 12月1日(土) 13:30~17:30

場所: 長崎県庁舎(長崎県長崎市)

内容: トーク&トーク、グループディスカッション(民間企業役員、大学生、行政担当者等)、長崎アピールの採択等。

定員: 120名

○自分を受け入れ自分を認め一歩踏み出す「キキ」の魅力と自己肯定感(国連ウィメン日本協会等との共催)

日本の子供は自己肯定感が低く、特に女性は自己肯定感が低い傾向があると指摘されています。自己肯定感が高い「魔女の宅急便」のキキをきっかけに私たちが自分を受け入れ認め、一歩踏み出すために何が必要かを考えます。

日時: 12月1日(土) 14:00~16:30

場所: 津田塾大学(東京都渋谷区)

内容: 講演「キキの物語(仮題)」(角野栄子氏(「魔女の宅急便」シリーズ著者))、鼎談「自己肯定感を育むには」(坂東眞理子昭和女子大学理事長、海原純子医学博士・心療内科医、松本晃RIZAPグループ株式会社代表取締役COO(前カルビー株式会社代表取締役会長兼CEO))

定員: 280名

○女性も男性も誰もが気軽に取り組める家事参画促進に関するシンポジウム「おとう飯ネクストステージ☆男性料理教室が証明する料理とWLB(ワーク・ライフ・バランス)の相関性」(仮称) (静岡市女性活躍推進会議等との共催)

昨年度の「しずおか版おとう飯レシピコンテスト」を踏まえ「おとう飯ネクストステージ」と題し、手早く・簡単・リーズナブルな「おとう飯」に、自立・家族の幸せ・生きがい等プラスアルファの要素を加えて考え、一人一人が家事へ気軽に参画できる意識を地域全体で高めます。

日時: 12月9日(日) 13:00~15:45

場所: ホテルセンチュリー静岡(静岡県静岡市)

内容: 講演「男性料理教室が証明する料理とWLB(ワーク・ライフ・バランス)の相関性(仮題)」(福本陽子氏(男性料理研究家・トータルフードコーディネーター))、パネルディスカッション(パネリスト: 福本氏、伊藤公雄京都産業大学教授、跡部千慧静岡大学助教、地元企業関係者、コーディネーター: 犬塚協太静岡県立大学国際関係学部教授)

定員: 150名

※シンポジウムの詳細・参加申込みについては後日男女共同参画局ホームページに掲載します。

<http://www.gender.go.jp/public/event/2018/renkeievent.html>

[News & Information]

6 Info

総務省

「困ったら 一人で悩まず 行政相談」 ー 10月15日～21日は行政相談週間ですー



平成30年度行政相談周知用ポスター

総務省は、平成30年10月15日（月）から21日（日）までを、「行政相談週間」とし、この期間を中心に一日合同行政相談所を全国で開設します。

一日合同行政相談所では、国の行政機関、地方公共団体のほか、弁護士、税理士等が一堂に会し、ご相談をワンストップで受け付けます。

また、総務大臣が委嘱した行政相談委員（全国に約5,000人（各市区町村に1人以上）を配置。）が、市区町村役場等で定期的に開設している行政相談所のほかに、地域のイベント会場等で行政相談所を開設します。なお、行政相談委員のうち約200人は、男女共同参画担当委員にも指名され、男女共同参画に係る施策についてのご相談もお聞きします。

ご相談は無料で、秘密は厳守されますので、お気軽にご相談ください。

一日合同行政相談所の日程など、行政相談については、最寄りの総務省行政相談センター（管区行政評価局・行政評価事務所・行政監視行政相談センター）にお問い合わせください。（全国共通電話番号：0570-090110）

7 Info

国立女性教育会館（NWECC）

「学校における男女共同参画研修」参加者募集

激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成するためには、これまでの教育だけでは通用しない大きな過渡期に差し掛かっています。「豊かな心の育成」をめざし、児童・生徒の発達段階に応じて、男女の平等や相互の理解、男女が参画していくことの大切さを、児童・生徒が学ぶ必要があります。なぜ女性管理職登用を進めなければならないのか、学校現場に潜む無意識の偏見とはどのようなものか等について、男女共同参画の視点から捉えて理解を深める研修です。

主なプログラム

講義「学校現場における男女共同参画課題とは」

情報提供「教職員の働き方改革」

講義・事例報告・ディスカッション

「女性教員の活躍推進と男女共同参画の職場づくりについて考える」
授業参観・解説

「みんな違ってみんないい～Iメッセージ～」

事例研修「性の多様性にどう対応するか」

日 時：平成30年11月29日（木）～11月30日（金）【1泊2日】
（1日のみの参加も可能）

対 象：教育委員会職員・教職員研修センター職員・初等
中等教育の校長・教頭・主幹教諭・教諭等 30名

参加費：無料（宿泊費1,200円、食事代、情報交流会費別途）
詳細は、NWECCホームページ→研修・イベント→研修→「学校における男女共同参画研修」で検索ください。

8 Info

里親制度をご存じですか？ ～10月は「里親月間」です～



里親制度は、さまざまな事情で家族と暮らせない子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と正しい理解を持って養育する制度です。

厚生労働省では毎年10月を「里親月間」として、社会全体で支援する気運を高めるため、里親制度に関する普及啓発を重点的に行っています。

期間中には、全国各地で里親制度の説明会や里親経験者による体験発表会などのイベントを行っています。子どもたちの健やかな成長のため、そして明るい未来のために、あなたも参加してみませんか。

里親制度や月間中のイベント情報については
厚生労働省ウェブサイトをご覧ください →



9 Info

厚生労働省

「多様で安心できる働き方シンポジウム」 参加者募集中

職務・勤務地・勤務時間等を限定した「多様な正社員」制度の導入は、ワーク・ライフ・バランスの推進と優秀な人材の確保・育成や定着に役立つものであり、パートタイム労働者や有期雇用労働者など非正規雇用労働者を正社員に転換し、活躍の場を広げる上でも有効な対策の一つです。

本シンポジウムは、今年10月から来年2月にかけて全国10か所（札幌・仙台・さいたま・東京・横浜・新潟・名古屋・大阪・広島・福岡）で開催し、「多様な働き方」に関する基調講演、「多様な正社員」制度の導入企業の取組事例の紹介やパネルディスカッションを行います。また、パートタイム・有期雇用労働法について簡単な説明もいたします。

働き方改革時代の複線型雇用管理に向けて「多様な働き方」にご興味をお持ちの経営者、人事労務担当者等の皆様はぜひご参加ください。（事前申込制・参加無料）

【シンポジウムの詳細・お申込みはこちら】

多様な人材活用で輝く企業応援サイト

<https://tayou-jinkatsu.mhlw.go.jp/sympo2018/>

男女共同参画センターだより

News From Center

福島県男女共生センター

女と男の未来館

福島県男女共生センターは、男女共同参画社会の実現を目指すための実践的活動拠点として、平成13年1月に福島県二本松市に開館し、18年目に入りました。

施設は、研修室、交流スペースの外、図書室、相談室、宿泊室等を有しており、県内外の多くの皆様にご利用頂いております。

開館からの10年は普及啓発に重点を置いた発信型の事業展開を、その後は、地域や個人の課題解決に結びつく事業を実施してまいりました。

昨年度、平成29年12月には、特定非営利活動法人「全国女性会館協議会」の全国大会が当センターで開催され、全国の男女共同参画センターから多数の参加があり、「課題に向き合い、地域に繋ぐ、私たちの使命」をテーマに、参加者と被災地の女性たちが情報交換を行いました。



洋室(ツイン3,900円、シングルユース4,300円)

また、今年7月には、働く母親を応援する男性・子どもの生活自立支援事業「お父さんといっしょに食を考えよう。」を開催しました。

お父さんと小学校4～6年生16名が参加し、4品の調理にチャレンジしました。お父さんからは、「子どもと一緒に料理をする楽しさが増えました。」お子さんからは、「今日作った料理を家で作ってお母さんに食べてもらいたい。」等の感想が寄せられ、楽しい一時を過ごしました。



お父さんと一緒に食を考えよう。

当センターは、これからも男女共同参画社会の実現に向け、各種事業を実施してまいります。

最後に、当センターは宿泊施設を備えた全国でも数少ない施設です。ぜひ、福島にお越しの際は、宿泊拠点としてご活用ください。職員一同、皆様のご来県をお待ちしております。

編集後記

9月も暑い日が続いていましたが、ようやく朝晩の気温も下がり、過ごしやすくなってきました。しばらくは、日々の気温の変化に注意し、体調を崩さないよう心がけましょう。

10月は「体育の日」の祝日もあり、スポーツをするには申し分ないシーズンです。月一ゴルファーの私としても、是非、爽やかな秋空のもと、楽しいひとときを友人と一緒に過ごしてみたいと思います。

皆さんも、家族や友人と秋空のもとスポーツに親しんでみませんか。

(編集デスク K.H)

【10月号表紙】

「おとう飯」の取組がもたらす「家族への愛情」を表現しました。お父さんが作った料理が愛情となり、お皿に盛り付けることをイメージしています。

デザイン／

株式会社スコープ

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」10月号

<http://www.gender.go.jp>

<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku/>

第116号 ● 2018年10月10日発行
編集・発行 ● 内閣府
〒100-8914

東京都千代田区永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局総務課
電話 ● 03-5253-2111 (代)
印刷 ● 株式会社アイネット



困ったら一人で悩まず

行政相談



Hello Kitty
©1976, 2018 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL No. 13000045

 **お困りごとは
気軽にご相談を。**

-  社会福祉のこと
-  医療保険や年金のこと
-  道路や公共施設のこと
-  役所の手続きのこと

など

相談無料
秘密厳守

ご相談は、お近くの行政相談委員へ。

または、

総務省
行政相談センター

お こま り な ら ま る ま る くじょー ひやくとおぼん
0570-090110

インターネットの相談受付もOK ▶ 行政相談受付



総務省・各府省行政苦情相談連絡協議会